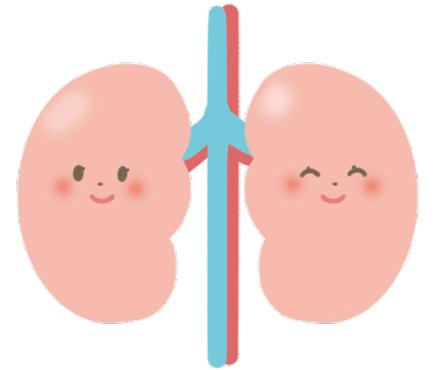


腎臓病と薬



— 血圧の薬を中心に —

兵庫県立尼崎総合医療センター 薬剤部

本日の内容

1 血圧の薬について

2 薬の管理方法など

ご自身の血圧の目標値は

知っていますか？



目標値



CKD患者の目標血圧値



		目標血圧値	
		75歳未満 (mmHg)	75歳以上 (mmHg)
糖尿病あり		< 130/80	< 150/90
糖尿病なし	蛋白尿なし	< 140/90	< 150/90
	蛋白尿あり	< 130/80	< 150/90

出典：CKD診療ガイドライン2018

- ・既往歴や合併症などにより、患者さん個人によって目標値が異なることがある。
- ・75歳以上の患者さんでも、場合により 140/90mmHgを目標とすることもある。

血圧を下げる薬のポイント

異なる種類の薬を組み合わせ
使うことがあります

例えば..

- 1種類では効果が不十分なとき
- 蛋白尿を減らしたいとき など



- ・1つの薬をたくさん飲むのではなく、副作用軽減のため違う薬を追加します。
- ・病気に応じて薬を選択します。

血圧を下げる薬の種類



内服薬



Ca拮抗薬

血管を拡げて血圧を下げます。

ARB

アンジオテンシンⅡの作用を抑えて血圧を下げます。

ACE阻害薬

血圧を上げる物質（アンジオテンシンⅡ）を作らないように血圧を下げます。

利尿薬

尿を出すことによって血管の中を流れる水分を減らすと同時に尿と一緒にナトリウムを排出させます。

β 遮断薬

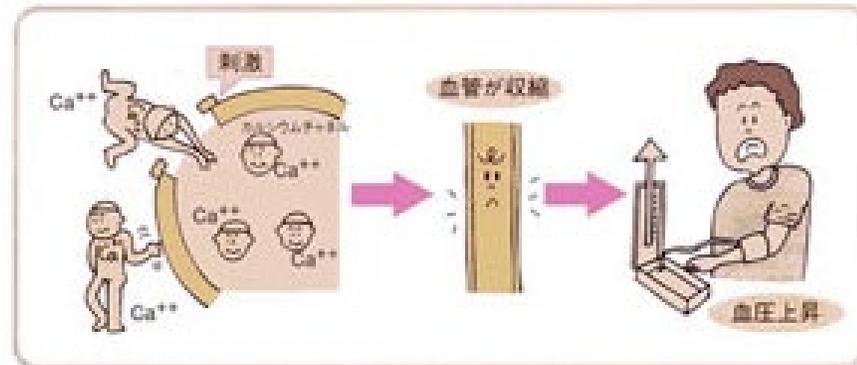
心臓の働きを抑えて血圧を下げます。

α 遮断薬

血管の収縮を抑えて血圧を下げます。

血管を拡げて血圧を下げる薬

細胞内Ca⁺⁺濃度が上がると血圧が上がります

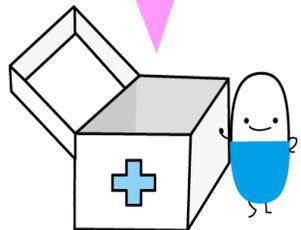


➤ カルシウム (Ca)拮抗薬

副作用:ふらつき、顔面のほてり、頭痛など

**注意:グレープフルーツジュースと併用しないでください。
(薬が効きすぎてしまうおそれ)**

主な薬



- ・ノルバスク®錠(後発:アムロジピン錠)
- ・アダラートCR®錠(後発:ニフェジピンCR錠)
- ・アテレック®錠(後発:シルニジピン錠)
- ・カルブロック®錠(後発:アゼルニジピン錠)

CR錠=徐放錠

ゆっくり溶けて、長い時間効果が持続するよう工夫された薬

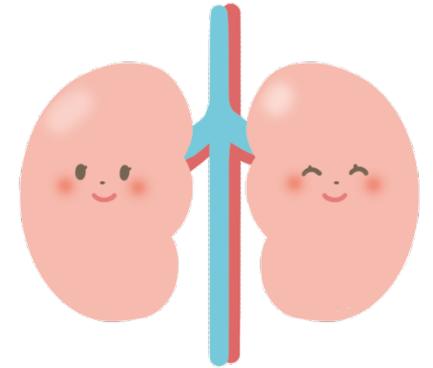


噛んで服用しないでください

血圧を上げる物質(アンジオテンシンⅡ) の作用を抑える薬

- アンジオテンシンⅡ受容体拮抗剤(ARB)
- アンジオテンシン変換酵素(ACE)阻害薬

副作用:空咳(乾いた咳)(ACE阻害剤)、
高カリウム血症など



◎腎保護作用がある (軽度・中等度腎機能低下時のみ)

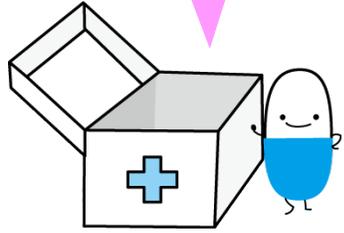
- ・タンパク尿を減らす
- ・腎臓(糸球体)の内圧を低下させる



特に、たんぱく尿のある方、
糖尿病のある方には、よく使
われます。

※高度腎機能低下時には使いません。

主な薬



アンジオテンシン変換酵素(ACE)阻害薬

- ・カプトリル[®]錠（後発：カプトプリル錠）
- ・タナトリル[®]錠（後発：イミダプリル錠）
- ・レニベース[®]錠（後発：エナラプリル錠）

アンジオテンシンⅡ受容体拮抗剤(ARB)

- ・アジルバ[®]錠
- ・オルメテック[®]錠（後発：オルメサルタン錠）
- ・ディオバン[®]錠（後発：バルサルタン錠）
- ・ニューロタン[®]錠（後発：ロサルタン錠）
- ・ブロプレス[®]錠（後発：カンデサルタン錠）
- ・ミカルディス[®]錠（後発：テルミサルタン錠）

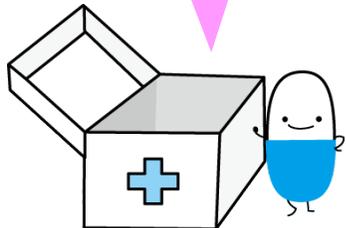
尿量を増やす薬

➤ 利尿剤

副作用: 脱水、電解質(ナトリウム、カリウム)異常

尿量を増やして、塩分や水分を体の外に排泄させて、血圧を下げます。むくみも改善します。

主な薬



アルダクトンA[®]錠(後発:スピロラクトン錠)
サムスカ[®]錠
セララ[®]錠
ダイアート[®]錠(後発:アゾセמיד錠)
ナトリックス[®]錠
フルイトラン[®]錠(後発:トリクロルメチアジド錠)
ラシックス[®]錠(後発:フロセמיד錠)



血圧を下げる薬の種類



近年は、2種類の成分が1錠にまとまっている「**配合錠**」が増えています。用量を微調整する場合は、あえて1成分ずつの薬を処方して、量を調節することもあります。

アムロジピン
(カルシウム拮抗薬)



テルミサルタン
(ARB)



例)ミカムロ®配合錠AP

血圧を下げる薬の気を付けること

●降圧薬すべてに共通する注意点●

過度に血圧が下がることにより、めまい、ふらつきがあらわれることがあります。

特に投与初期には、自動車の運転などの危険を伴う機械の作業に注意して下さい。



本日の内容

1 腎臓病で使う薬

2 薬の管理方法など

薬の管理で困っていることはありませんか？

薬が多くて管理
が大変..

朝飲んだかどうか
思い出せない。

きちんと薬を飲んでる
つもりなのにいつも薬
が余ってしまう..



薬の管理に困ったら・・・

一包化

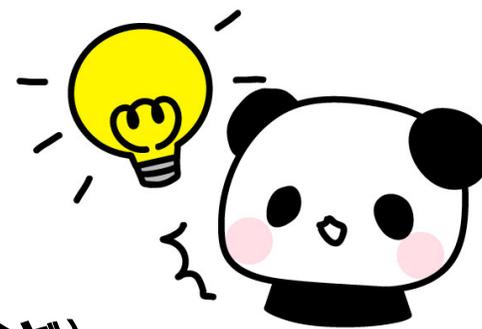


- ◆ 一包化
- ◆ 配薬カレンダーの使用
- ◆ 薬の箱(ピルケースなど)
- ◆ 薬局かかいつけ薬剤師を活用

(自宅でご家族の方に声をかけてもらう、
自宅の目に付く場所(食事テーブルの上など)に置いておくなど)



ピルケース



配薬カレンダー

調子がいいからと言って飲むのをやめると・・・

- ➡ 血圧が再度上昇し、血管が硬くなる
- ➡ 腎臓機能の低下が進行
- ➡ 入院、透析導入、腎移植の可能性



腎機能低下はほとんど**無症状で進行する**から
こそ、医師の指示を必ず守りましょう！



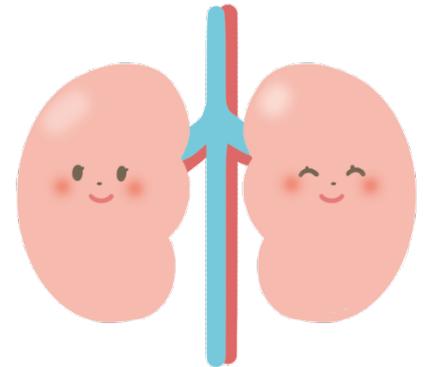
腎臓の機能を守るために

- ◆ 市販薬やサプリメント、健康食品、漢方薬の中には腎臓の機能を悪化させる成分が入っているものがあります。
試す前に医師に相談しましょう。

★注意したい市販薬★



- ・かぜ薬
- ・解熱薬
- ・鎮痛薬(ex.頭痛薬など)
- ・抗生物質



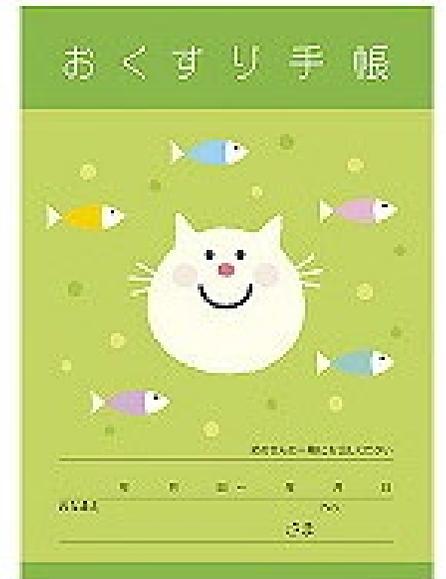
薬の飲み合わせは大丈夫ですか？

一緒に飲んでではだめな薬や健康食品があります。
(効果が弱まる、強くなりすぎるなど)

病院で出ている薬の飲み合わせは大丈夫なので安心して服用してください。

複数の医療機関で薬をもらう場合や、サプリメントや健康食品を購入する際は、服用中の薬についても相談しましょう

**今飲んでいる薬がわかるように
おくすり手帳は必ず持ち歩いてください。**



- 
- ✓ 医師はきちんと薬を飲んでいると思っています。
ご自身で調節すると、状態に合わせた治療ができません。😞
 - ✓ 薬を中止したいときは自己判断せず、医師と必ず相談しましょう！
 - ✓ 副作用が起こると適切に対応する必要があります。
→気になることがあれば無理せずに医師、薬剤師に伝えてください。



薬を正しく服用して、大切な腎臓を守りましょう

